

シャープダイナ #31

[2] シャーシー内部

2025.1.23

シャープ社友会
ラジオ愛好者同好会
吉田育弘

キャビネット下面

裏ブタ固定ねじ ×4

キャビネットとシャーシを固定するボルト ×4

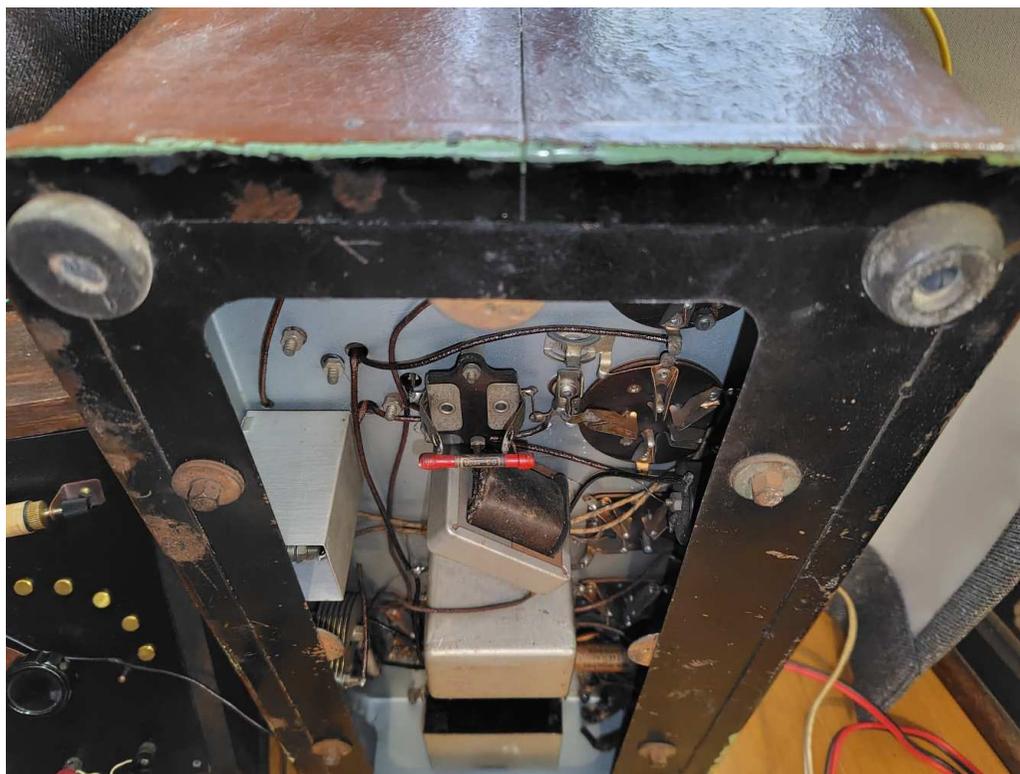


ゴム足は朽ちている

ゴム足の状況

いずれのゴムも弾性は失われている

RF増幅側
背面の一つは比較的原形をとどめている



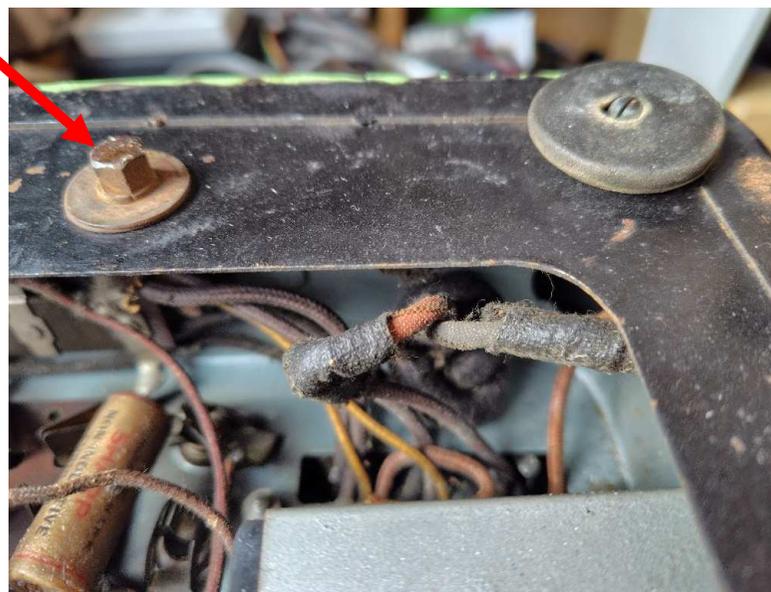
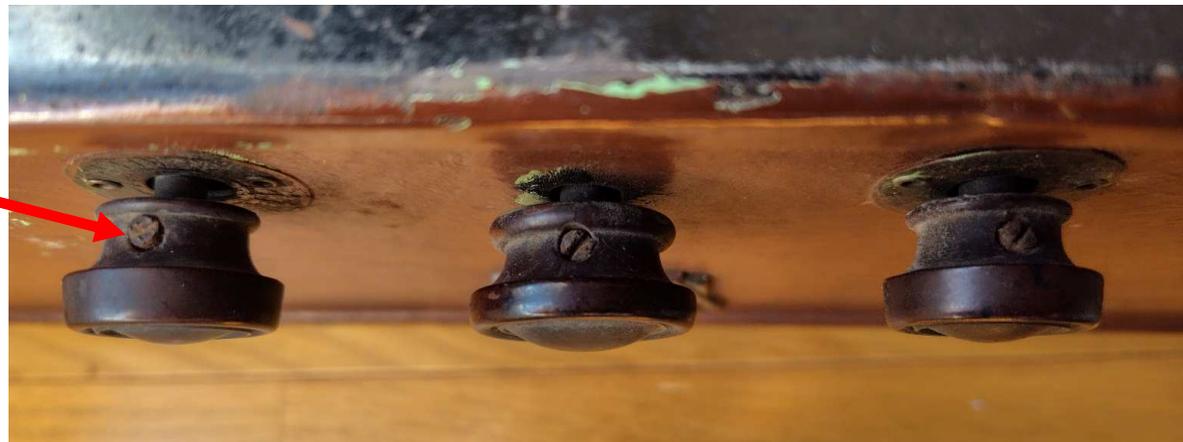
トランス側
おそらくトランスの自重の為、押しつぶされている



キャビネットとシャーシの分離

(1) イモネジを緩めてつまみを取り外す
固く固着してしまっていて、
本機では取り外せない

(2) 固定ボルト4本をはずすと
シャーシと筐体の分離が可能



シャーシの取り外しができないので、
キャビネット越しに点検を進める。

シャーシ内部全体

224のカソード抵抗

224、227Bのハムバランス
センターでカソード抵抗とともにGND

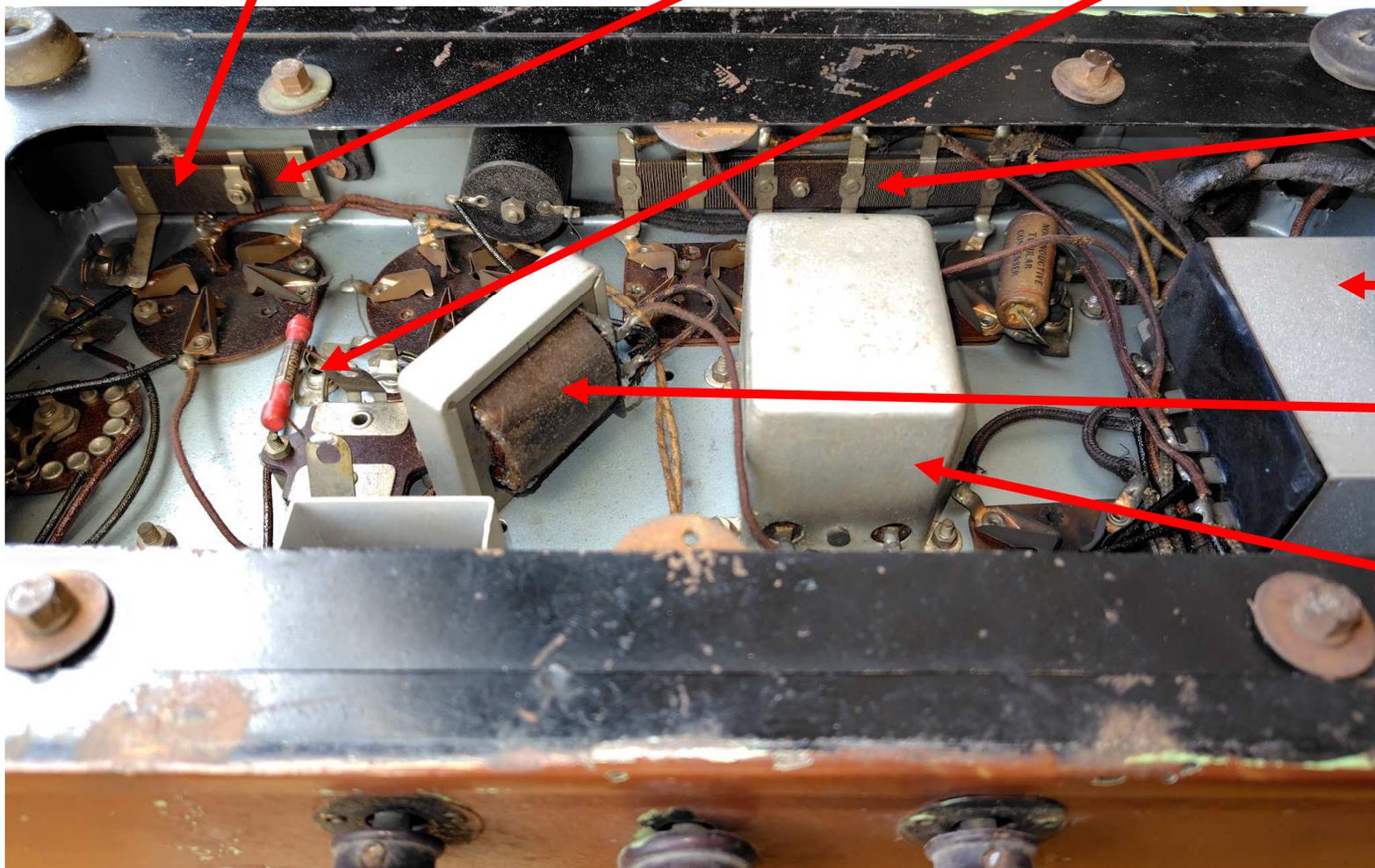
227Bのグリッド抵抗と
コンデンサ

F104、12Aの
ハムバランス

5端子のパック部品
電解コンデンサ等

F104の入カトランス

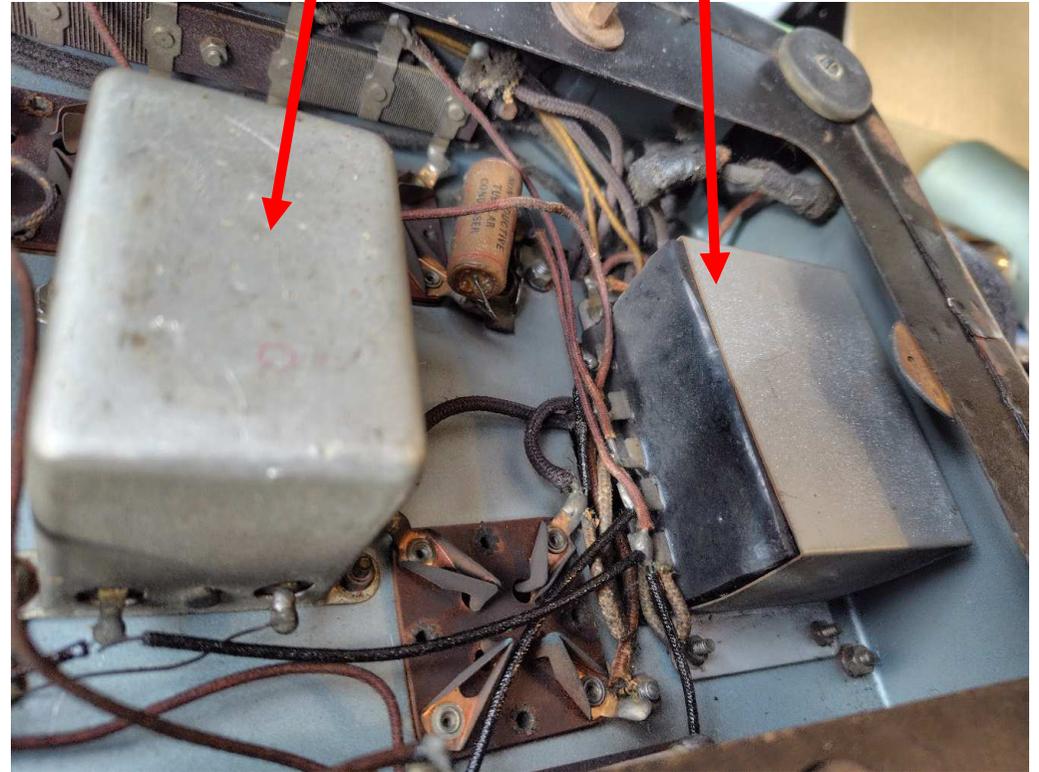
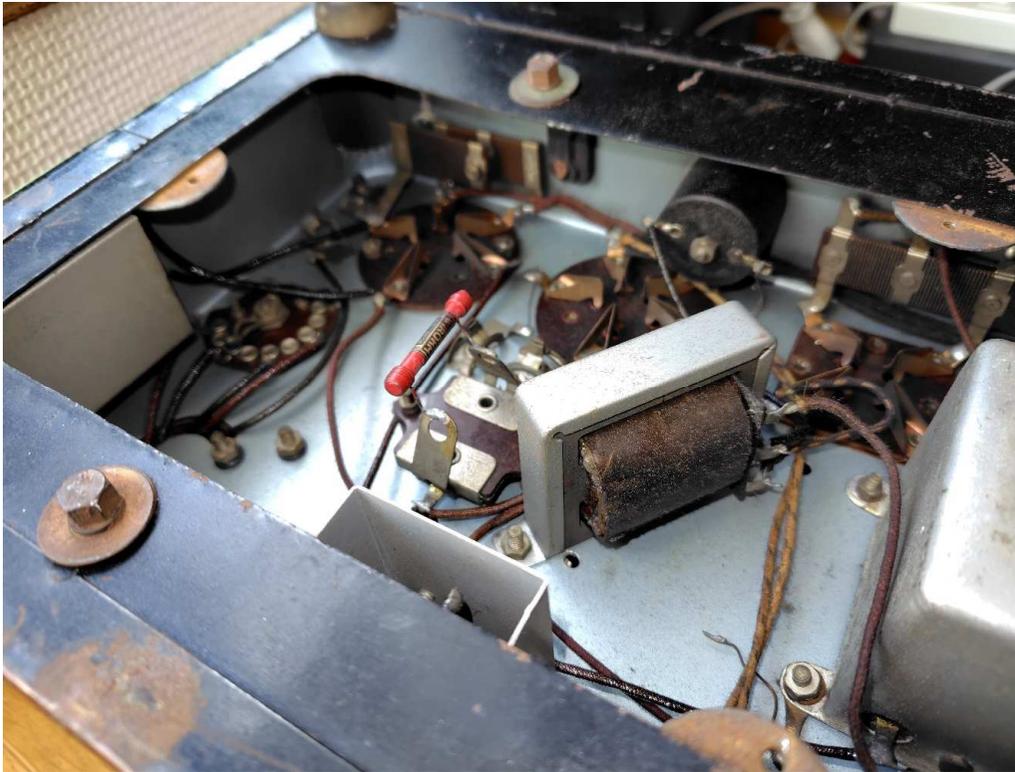
12Aの入カトランス



シャーシ内部全体 左右の拡大

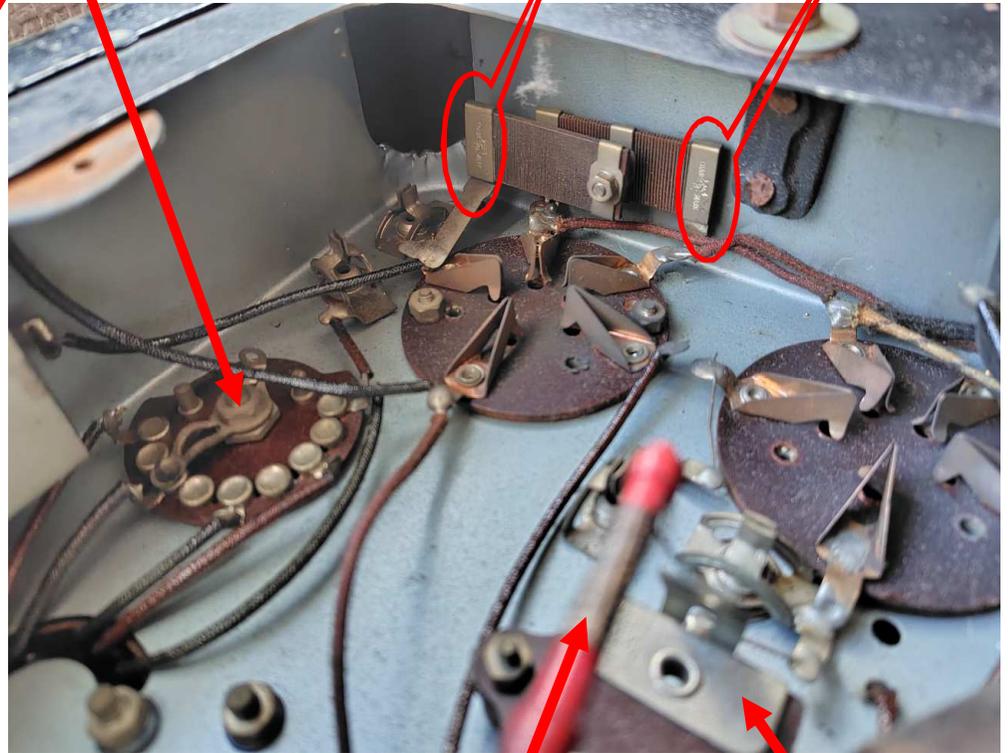
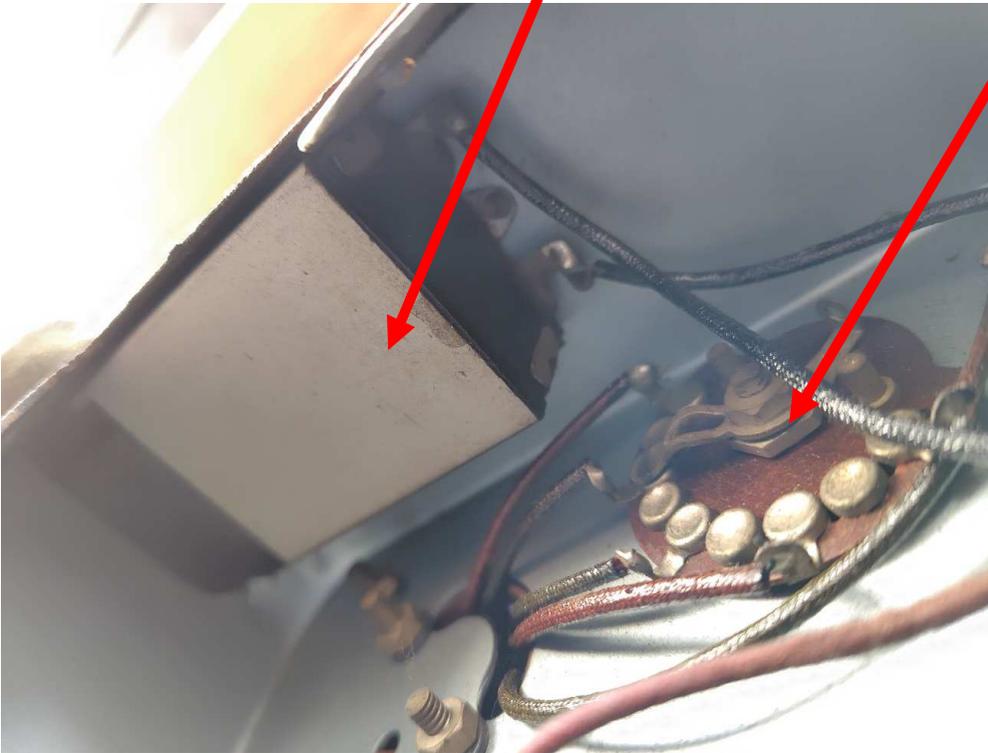
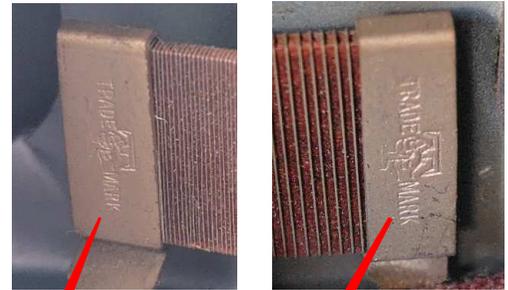
平滑コンデンサはパックされている。保安目的か。

12A入カトランスはシールドを被っているが、アルミ製の為、
電源トランスからの漏れ磁気には効果が薄いと考えられる



224、227Bソケット周辺

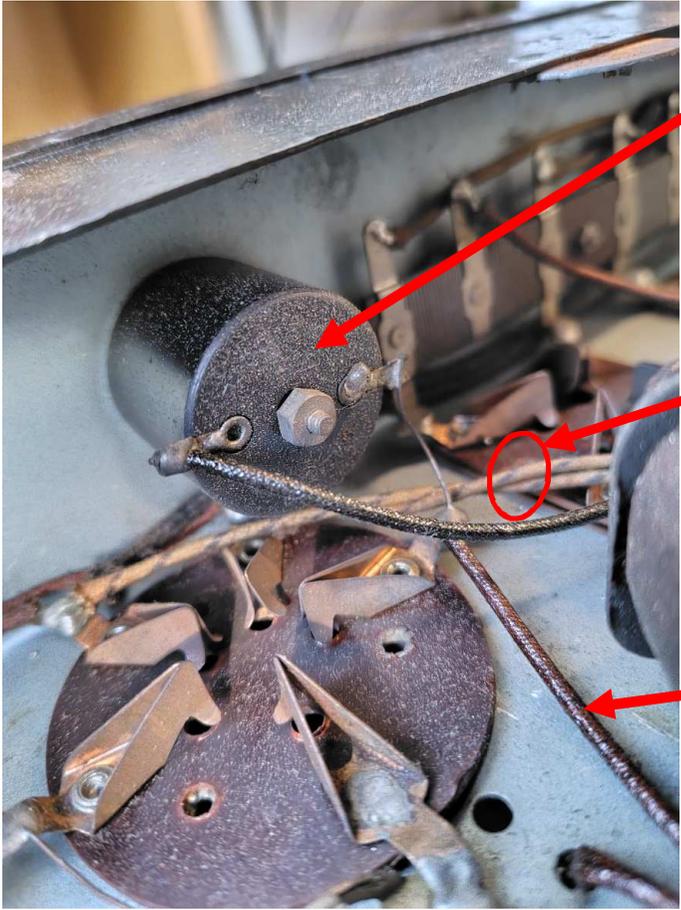
224のSGパスコン アンテナコイルタップ切り替え



227B
グリッド抵抗

227B
グリッドコンデンサ

227Bソケット周辺



RFC

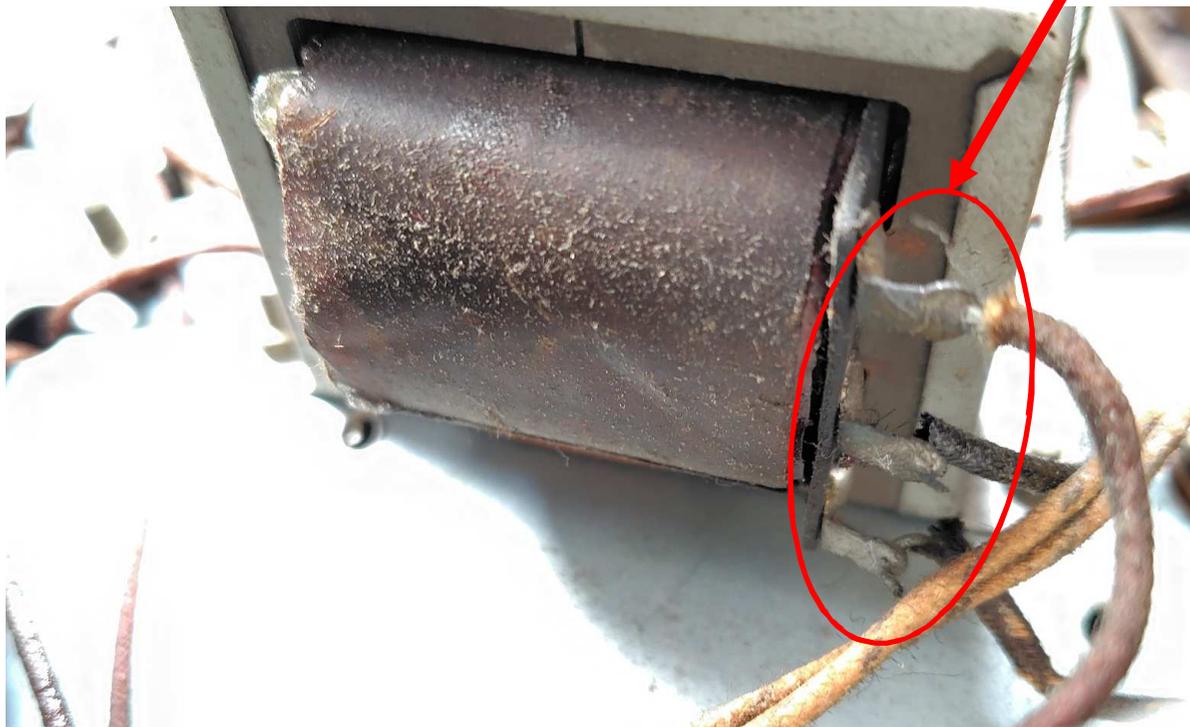
パイロットランプへ

再生コイルより

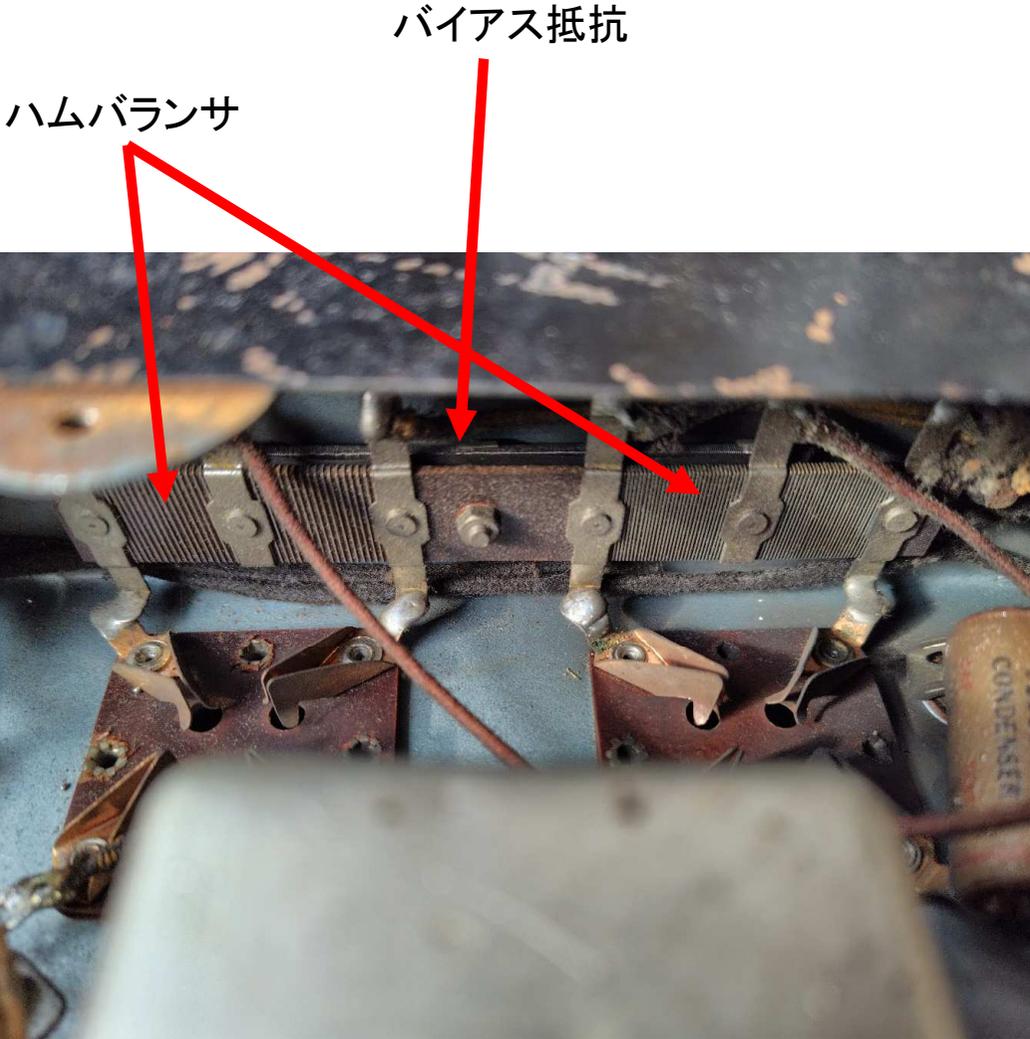
F104の入カトランス

端子は3つ

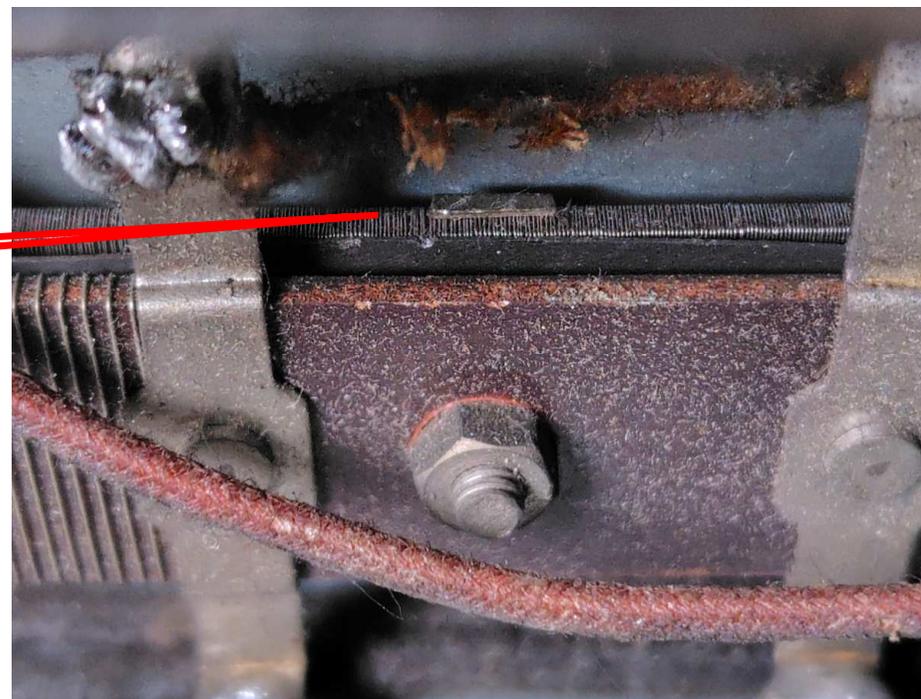
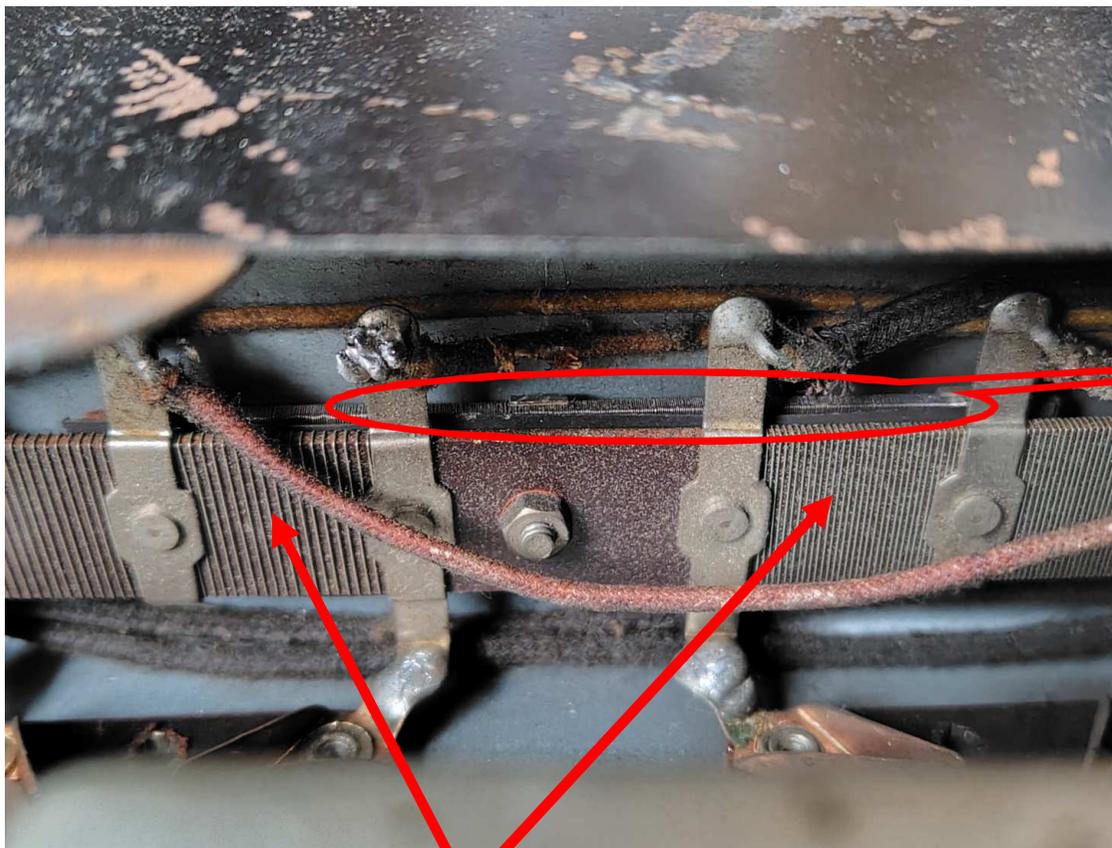
4つ目の端子はGNDされている



F104、12Aソケット周辺



F104、12Aハムバランス、及びバイアス抵抗

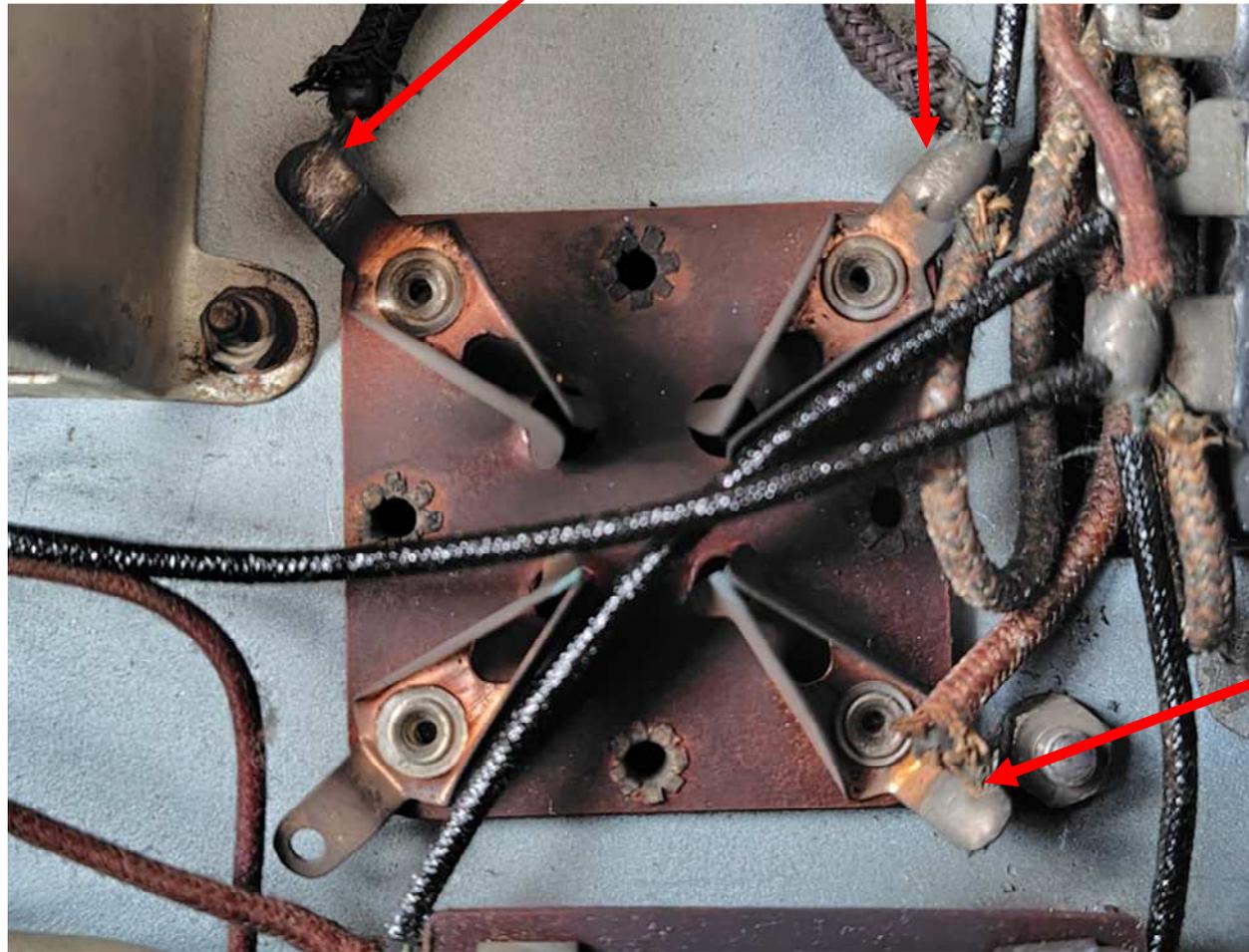


巻き線密度が異なる(抵抗値が異なる)

KX112Bソケット周辺

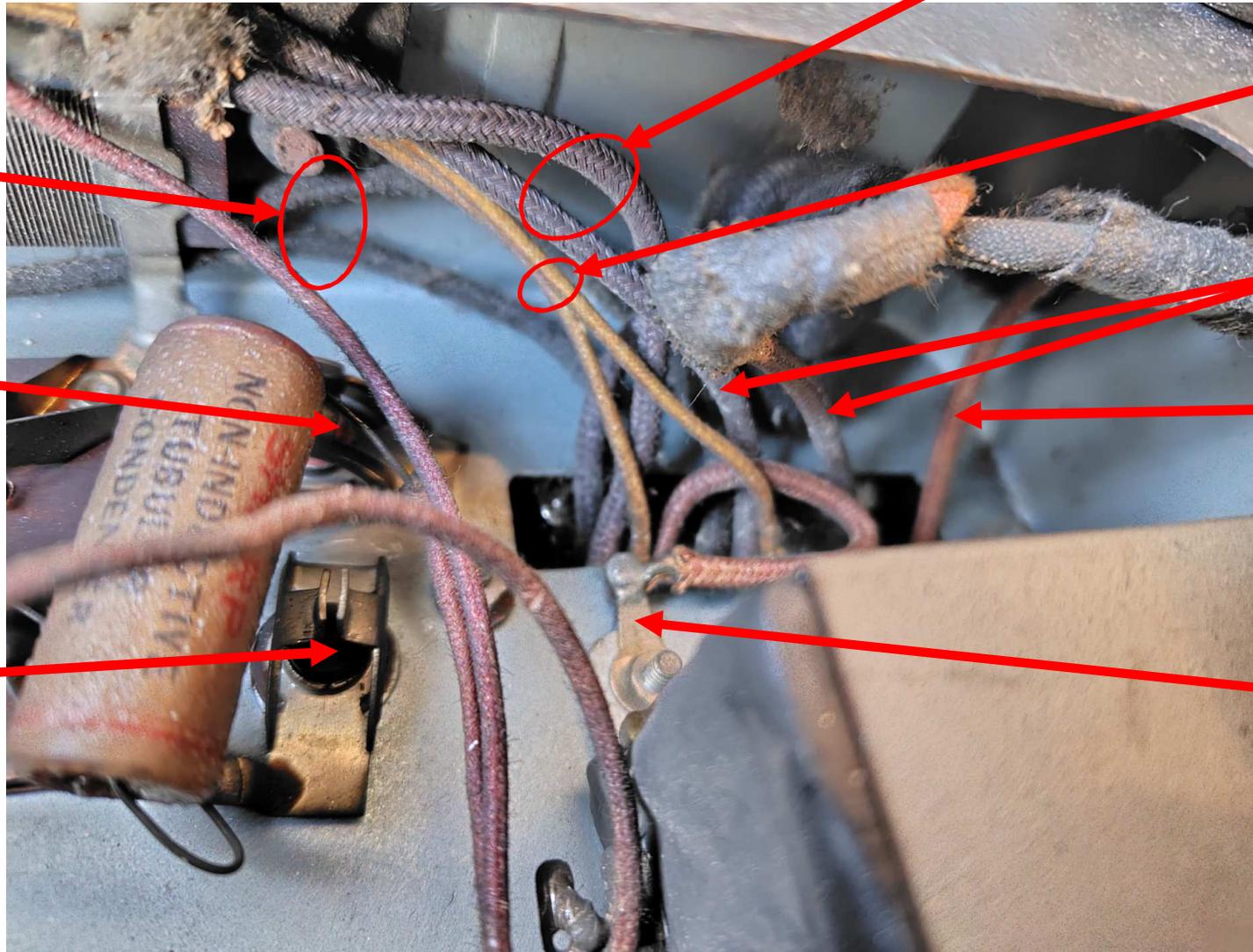
フィラメント

フィラメント
B+出力(パック部品端子①に接続)



プレート

12A出力側、電源トランス引き出し部



12Aのフィラメント

F104Aのフィラメント

224、227Bヒーター

AC100ヒューズ側

B+

AC100ホット側

12Aプレート

B+巻き線の接地点

パック部品接続



- | | |
|-----|-------------|
| 端子① | 平滑コンデンサ |
| ② | F109カソード |
| ③ | 12Aカソード |
| ④ | 227BのB+パスコン |
| ⑤ | 平滑コンデンサ |

AFチョークからの戻り

AFチョークへ

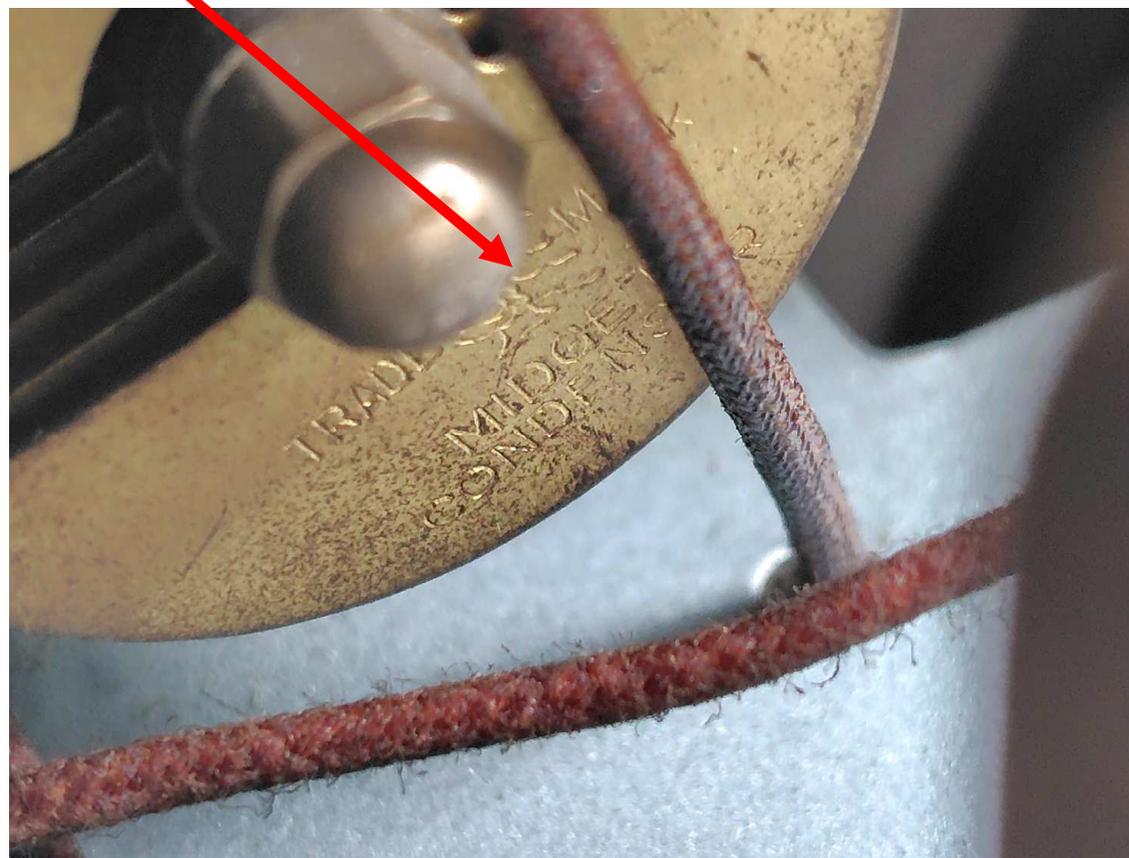
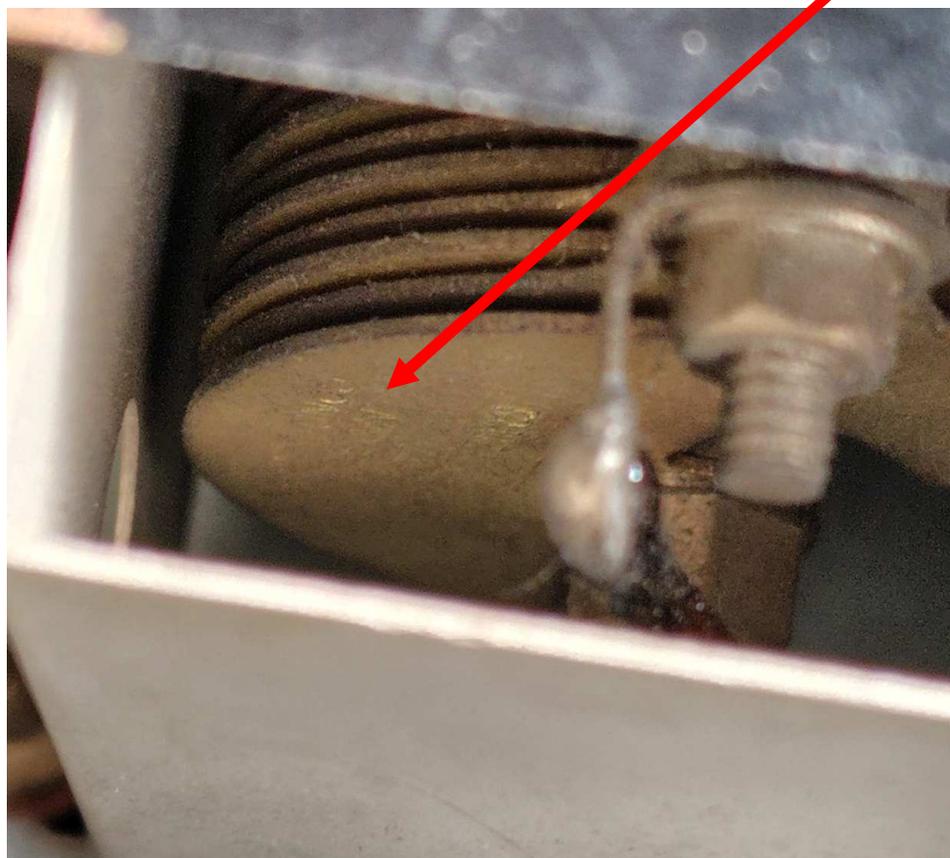
B+トランス出力
ホット側

AFチョークはシャーシ上面の
トランスパックに収納されている

ミゼットバリコン2つ

プレートは13枚

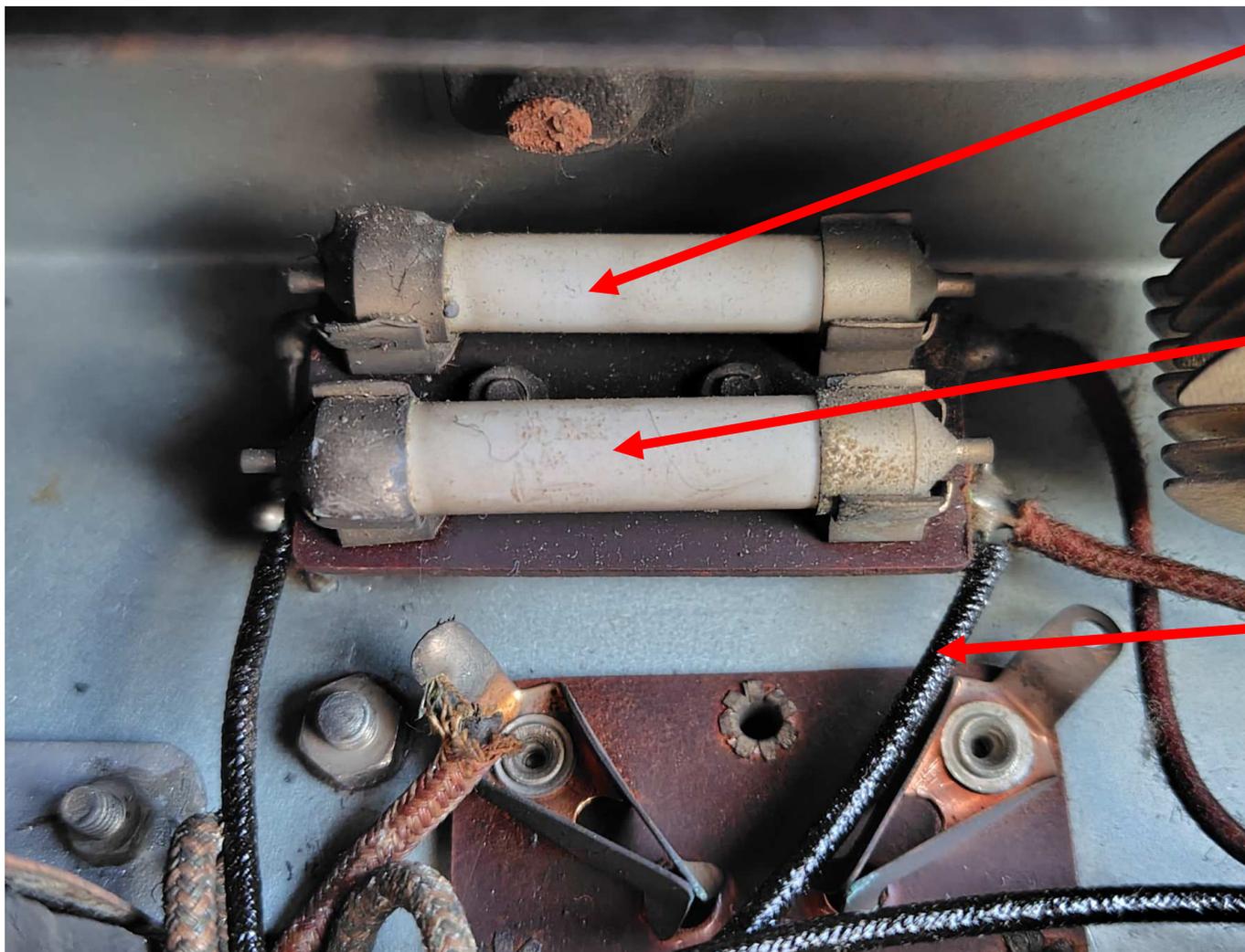
トレードマークが見られる



手持ちのSHARP製ミゼットバリコン新品(参考品)



B+のドロツパー用抵抗



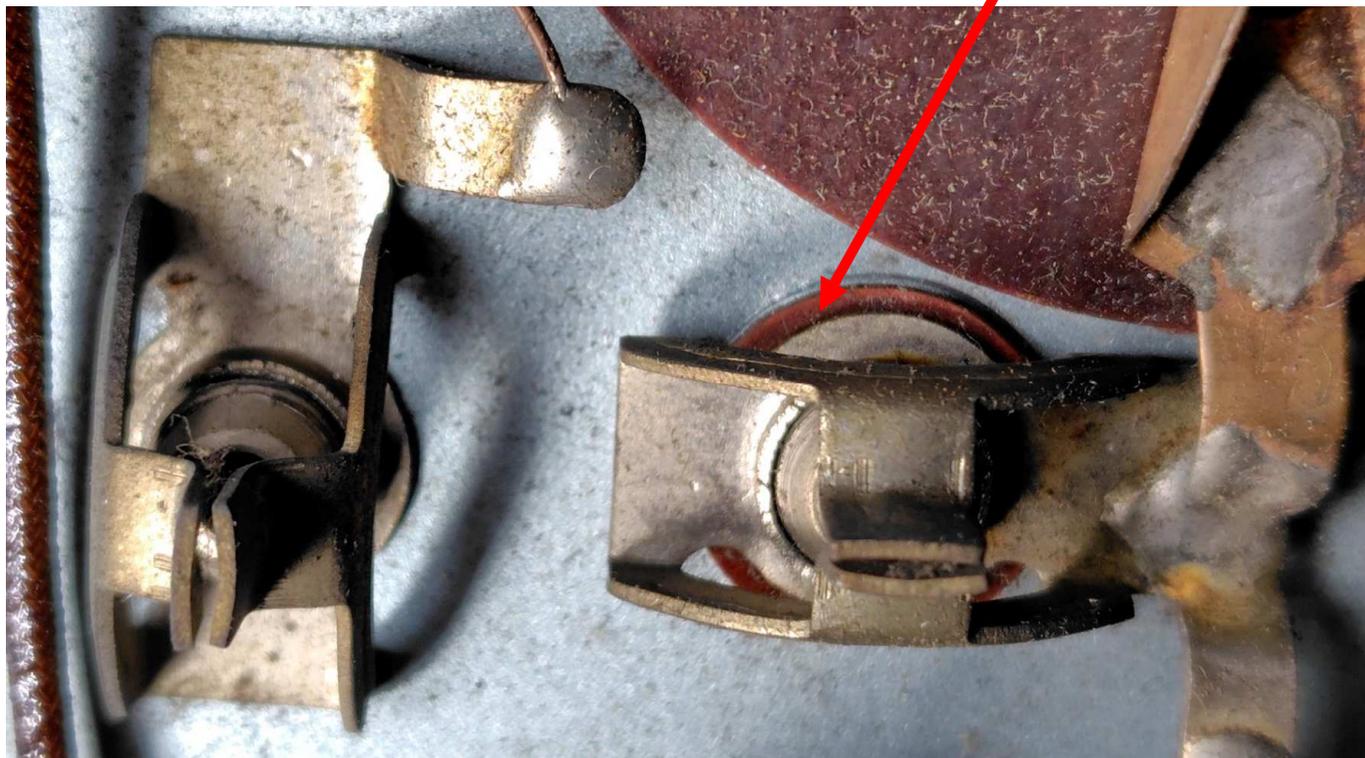
224
SGドロツパー抵抗

227B
プレートドロツパー抵抗

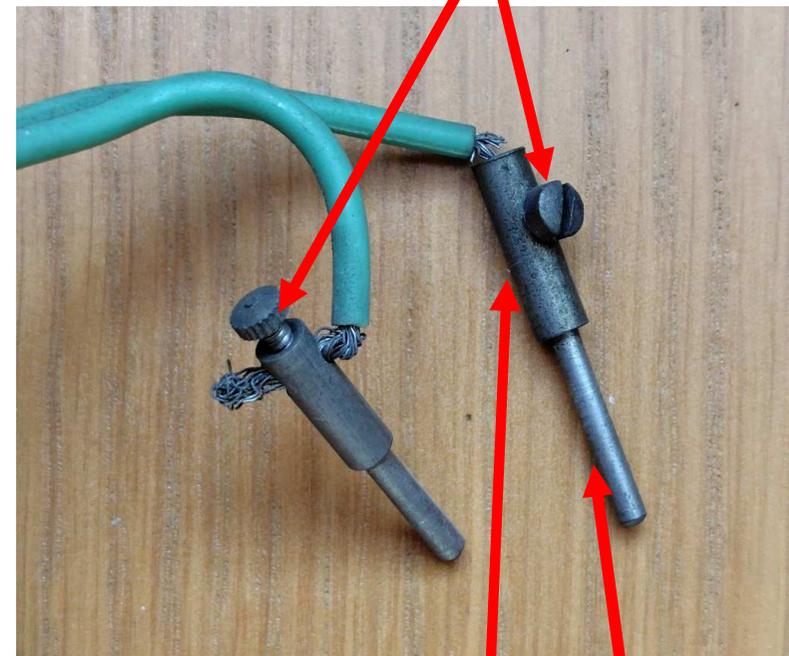
電解ブロック
端子④へ

引き出し端子

絶縁にはベーク板が利用されている



ネジの入り方が異なる



φ4.0 φ2.4

古いテストのテスト棒とそのコネクタのようなイメージ
同系の部品は、NO.6型鉱石ラジオにも使用されていると思われる